ISSN 1345-3343

Library Navigator
ライブラリーナビゲーター

図書館イメージキャラクター
よむりす

立命館大学
図書館だより
2016.3
119

特集1 平井嘉一郎記念図書館探検 P.3

特集2 新入生歓迎！学生ライブラリースタッフから新入生へ贈る一冊 P.6

特集3 各館利用者インタビュー P.10

図書館からのメッセージ「平井嘉一郎記念図書館の開館」 P.2
学生ライブラリースタッフ活動紹介 P.9
【連載】さよなら衣笠図書館（第3回）理工学部 酒井達雄教授 P.14
Information P.16

RITSUMEIKAN

図書館長からのメッセージ
～新入生に贈る言葉～

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

昨年4月、大阪いばらきキャンパス（OIC）開設に伴い、開放的な新図書館を開館しました。今年は、衣笠キャンパスの正面玄関に品格のある新図書館を開館しました。「平井嘉一郎記念図書館」といいます。

1940年に本学法学部経済学科を卒業され、日本有数のコンデンサ・メーカー「ニチコン株式会社」を創業した故平井嘉一郎氏は、生前から次世代を担う若い人たちの育成に力を注いでこられました。そのご遺志をくまれて、平井氏のご令室（夫の配偶者のこと）、平井信子氏がこの新しい図書館をご寄贈されたのです。3階には「平井嘉一郎メモリアルルーム」が開設されています。ぜひ訪れて、みなさんの大先輩の足跡をたどってみてください。

また本学出身で本学文学部教授を長く勤められ、文化勲章を受賞された、漢字研究の第一人者である白川静教授、本学とゆかりの深い国際的知識人である加藤周一氏、お二人の手稿、ノート、蔵書等を集めた「白川静文庫」、「加藤周一文庫」も2階に併設しています。図書館はお二人に関わる研究の拠点でもあるのです。

立命館大学の各図書館のコンセプトは、「学びが見える、学びに触れる、学びあえる」です。これから卒業までの間、図書館がみなさんにとって、読書と思索、学習と研究、議論とプレゼンテーション、学習を通じた仲間作りの場となることができるように、私たち図書館教職員一同、がんばっていこうと思います。ぜひ各キャンパスの図書館を訪れ、私たちや学生ライブラリースタッフに気軽にお声かけください。学生の皆さんが図書館を思いきり活用することで、図書館は活性化し充実した学びの場となります。学生の皆さんも新しい図書館を一緒に作り上げていく一員だと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

立命館大学図書館長
法学部教授・法学博士
二宮　周平

平井嘉一郎記念図書館の建設と開館について

2016年4月1日「平井嘉一郎記念図書館」が開館されました。故・平井嘉一郎様は1907年（明治40年）12月24日現在の京丹後市大宮町において誕生、1940年（昭和15年）に本学法学部経済学科を卒業、その後ニチコン株式会社を創業し半世紀にわたり同社発展に力を注がれ、世界に躍進する企業へと、その礎を作り上げてこられました。2001年（平成13年）1月20日93歳でご逝去なされるまで、真摯な人柄にして仕事一筋、有言実行・率先垂範の経営者としてご活躍されました。

ありし日の平井嘉一郎様

平井嘉一郎様は常々、次代を担う若者の育成についても貢献したいとのお考えを持っておられ、今回、そのご遺志を引き継がれたご令室平井信子様のご寄付によって、平井嘉一郎様のお名前を冠した、重厚感溢れる立命館大学の新しいアカデミックシンボルとなる新図書館が建設されました。

新図書館「平井嘉一郎記念図書館」は、立命館大学の学習者・研究者の新しいニーズに応える豊かな機能を備えるように設計されています。そして本学における「学びのコミュニティ」の中心拠点として、長時間滞在したくなる快適な空間を創造し、将来にわたって利用者に愛される長寿命型の図書館を目指しています。1967年から長年にわたって本学学生の学びを支えてきた衣笠図書館に代わる「平井嘉一郎記念図書館」は、これまで育まれてきた学びの文化をしっかりと継承し、更なる深まりを見せることでしょう。「学びが見える、学びに触れる、学びあえる」をコンセプトに誕生した新しい図書館を学生の皆さんの知的活動拠点として大いに活用してください。

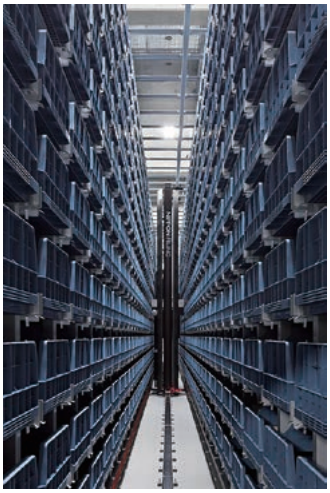
平井嘉一郎記念図書館の知ってほしい5つの特色

1 最先端を詰め込んだ図書館

平井嘉一郎記念図書館は大学図書館として最先端の機能を備えています。自動貸出機能付図書館ゲート（KASIDASゲート）は日本初の機構で、本を持ったままウォークスルーで貸出手続きができます。最新の自動貸出返却機では約10冊の図書を一気に貸出・返却手続が可能です。自動書庫は国内最大級で100万冊の収蔵冊数を誇り、蔵書検索システムからワンクリックでリクエストした本を取り寄せることができます。

またPCロッカーには80台以上のノートパソコンを収納し、自動で貸出・返却を行います。

KASIDASゲート



自動書庫

2 学びを深められる学習環境

■目的に応じて、快適に学びを深められる閲覧室

平井嘉一郎記念図書館は階によって表情が異なり、カジュアルな地下1階、学び合う声の聞こえる1階、重厚な雰囲気で静寂な2～3階と、上階また南側ほど落ち着いた雰囲気を醸し出しています。閲覧席は総数2,000席以上、左右に仕切りがあるキャレル席は約850席、研究・学習に集中できる一人用の「個人研究ブース」も設けています。電源コンセント付座席は約1,100席とノートパソコンも安心して利用できます。椅子の種類は50種類以上で、目的に応じて「自分だけの学習環境」を選ぶことができます。これらの設備によって、長時間滞在しても快適に学びを深めることができます。

個人研究ブース

閲覧席

■主体的でアクティブな学びを支援する ラーニングコモンズと専門サービス

平井嘉一郎記念図書館は、専門分野を超えて仲間と共に問題解決を図り、社会で体験した学びを共有する新しい学習・教育スタイルを実践できる図書館です。ラーニングコモンズ「ぴあら」はグループや個人学習に必要なツールと学術情報を取り揃えた空間を提供し、主体的でアクティブな学びを全面的にサポートします。サポートカウンターではレポートの書き方や学習相談をおこないます。またタイムマネジメントやノートテイクなど学生生活で必須となるテーマで「ぴあら講習会」も開催します。ほかにも館内では各種の利用者支援サービスを行っています。サービスカウンターでは図書館の使い方や資料の探し方を、レファレンスカウンターでは学習・研究に必要な情報や資料の入手を、専門スタッフがお手伝いします。

■図書館の新たな機能として、情報の加工と発信機能を整備

これからの社会では、知識の量だけでなく「自ら情報を加工し発信する力」が求められています。平井嘉一郎記念図書館では、皆さんがコンテンツを作成し、学習・研究成果を発信するための施設・機能を整備しました。「メディア編集室」では映像編集が可能で、「シアタールーム」は本格的映像・音響装置によって映像作品を発表できます。「カンファレンスルーム」では学習・研究発表など多様な成果発信の場として利用できます。

3 アカデミックシンボルに相応しい貴重な蔵書

平井嘉一郎図書館は大学での教育・研究を支える100万冊以上の蔵書があります。また立命館にしかない特別コレクションとして、学祖・西園寺公望、創立者・中川小十郎の蔵書を含む、約7万冊の貴重書・準貴重書を収蔵しています。平井嘉一郎記念図書館の開館にあわせ、「白川静文庫」など今まで自由に閲覧できなかったコレクションの一部を公開し、手にとって閲覧できるようにしました。また2016年4月、新しいコレクションとして「加藤周一文庫」を開設しました。

ライブラリーバレー

書 架

白川静文庫・加藤周一文庫

4 世界を身近に感じる図書館

グローバルな社会で学び成長する学生を支援するため、世界を身近に感じられる様々なコーナーを設けました。「ぴあら」の多文化交流エリアでは語学のスキルアップに役立つ資料に加え、海外事情や海外文化に関する書籍や旅行ガイド等を整備しました。留学生など様々な文化的バックボーンを持った学生同士が交流できるイベントや、留学に関する説明会・相談会などの開催も予定しています。また京都に唯一の国連寄託図書館を設置しており、国連の公式記録を閲覧することができます。

国連寄託図書館

5 図書館の建物内にカフェがOPEN！

図書館入口1階にオープンするTully' S Coffeeの飲み物は、「ぴあら」に持ち込むことができます。

新入生歓迎！

学生ライブラリースタッフから 新入生へ贈る一冊

図書館で活躍する各学部の学生ライブラリースタッフに、
新しく大学生活をはじめる新入生に薦める一冊を紹介してもらいました。

生命科学研究科
生命医科学コース M1 回生

原田 裕大 さん

アイデアを形にして伝える技術
原尻淳一 著（講談社現代新書）2011 年

大学では発信型の勉強が中心となり、人にわかりやすく伝えることが求められます。この本には散らばっているアイデアを集め、形にするためのアドバイスが詰まっています。頭の中を整理したい人はぜひ読んでください。

薬学部
薬学科 2 回生

平野 尋大 さん

超一流の雑談力
安田正 著（株式会社文響社）2015 年

本書では、会話をいかにして盛り上げるのか、そして、印象のいい話し方などこれからの大学生活だけでなく、社会に出た時にも役に立つスキルが盛り込まれています。会話スキルをあげたいという方、是非読んでみてください。

経済学部
国際経済学科 2 回生

畑佐 美佳 さん

大学生の生き方・考え方
塚谷正彦 著（実教出版）2007 年

この本は、みなさんが夢に向かって歩み出すための道しるべとなる本です。筆者自身の経験から、大学生活をどのように学び、過ごしていくべきかの道筋を示してくれています。ぜひ、一読して実りのある大学生活を送ってください。

理工学部
ロボティクス学科 2 回生

藤井 慎也 さん

下町ロケット
池井戸潤 著（小学館文庫）2013 年

皆さんには夢がありますか?この本はロケット開発に携わるという夢を追い求める本です。初めは夢破れ家業を継いだ主人公ですが世界屈指の特許技術をもとにもう一度夢を追いかけます。この不屈の精神をぜひ味わってほしいです。

情報理工学部
メディア情報学科 4回生

西村 拓斗 さん

毒になるテクノロジー iDsorder
ラリー・D・ローゼン 他 著（東洋経済新報社）2012年

本書はSNS等が人々の心に与える弊害について記しています。さらなる発展が予測される情報分野ですが、その負の側面と向き合うことも重要と考え、本書を紹介いたしました。

経営学部
経営学科 2回生

井上 美賀子 さん

妖怪アパートの幽雅な日常
香月日輪 著（講談社）2003年

主人公が入居することになったのはなんと妖怪アパート! そこで個性豊かな人間や妖怪など、様々な道を歩んできた人生の先輩たちと出会っていく。この本の中で感じられる「世界」の広さはあなたの「世界」を広める手伝いもしてくれるかもしれません。

スポーツ健康科学研究科
身体運動科学領域 M1回生

御前 純 さん

イシューからはじめよ：知的生産の「シンプルな本質」
安宅和人 著（英治出版）2010年

大学の学びでは、自分で「問い」を立て、その「答え」を導き出す力が求められます。本書では、それらの力を身につけるために必要な思考について、分かりやすく述べられています。関心・専門にかかわらず、ぜひ読んでほしい一冊です。

政策科学部
政策科学科 2回生

松永 岳大 さん

広告コピーってこう書くんだ!読本
谷山雅計 著（宣伝会議）2007年

なぜあの広告を見てしまうのか? どうすれば目を引く文章を書けるのか? そんな疑問を、実際のコピーを交えて解説します。新歓から就活まで、様々な用途で役立つ一冊です。

学生ライブラリースタッフから新入生へ贈る一冊

法学部
法学科 2回生

時實 史織 さん

この部屋で君と
浅井リョウ、飛鳥井千砂、越谷オサム、坂木司、徳永圭、似鳥鶏、三上延、吉川トリコ 著（新潮社）2014年

大学生になり、親元を離れ一人暮らしを始めた方も多いのではないでしょうか。本書は、「誰か」と住む色々な形と揺れ動く気持ちを描いたアンソロジーです。同じ大学の女の子と、会社の同僚と、友人の子どもと、神様と。今まで家族と暮らしていたのとはまた違う生活を始める時に、ワクワクやドキドキを添えてくれる本です。

産業社会学部
現代社会学科 3回生

孫 ハンビット さん

地球の歩き方シリーズ
地球の歩き方編集室 著（ダイヤモンド社）

大学生のメリットの1つが長期休みですが、それを上手に活用して旅などの「今しかできないこと」をたくさん経験してほしいと思います。立命館大学の図書館には地球の歩き方シリーズが全て揃えてありますので、ぜひ活用してください。みなさんの視野が広がることの一助になればと思います。

国際関係学部
国際関係学科 3回生

宮地 一輝 さん

夜は短し歩けよ乙女
森見登美彦 著（角川書店）2006年

KADOKAWA

冴えない大学生の主人公が、可憐な乙女に恋をする。京都を舞台に繰り広げられる、心地よくて胸が温かくなる恋愛小説です。新入生の皆さんがオモシロオカシイ4年間を送る手助けに、きっとなってくれることでしょう。京都で大学生活を送る方に、ぜひ読んでいただきたい一冊です。

文学部
人文学科 3回生

吉水 希枝 さん

思考の整理学
外山滋比古 著（筑摩書房）1986年

大学とは自らで思考する場です。思考するというのは、与えられた知識を獲得していくだけの高校までの勉強とは異なります。インターネットから膨大な情報が得られる現代において、また、膨大な「知」が存在する大学という場において、創造的思考とは何かを示唆し、創造的に思考するためのきっかけをくれる一冊です。

映像学部
映像学科 3回生

小山 千佳 さん

ぼくは明日、昨日のきみとデートする
七月隆文 著（宝島社）2014年

大学生になると、授業にサークル、アルバイトと充実した忙しい毎日を過ごすことになると思います。そんな生活の中に、本を読んで涙を流す時間を作って欲しいと思い、この本をお勧めします。京都を舞台とした恋愛物語で、非常に胸が苦しくなる作品です。ぜひこの本で涙を流して、一息ついてください。

学生ライブラリースタッフ活動紹介

STUDENT LIBRARY STAFF

法学部 法学科 2回生
三好 拓磨 さん

学びを支えるピア・サポート活動の一環として存在する学生ライブラリースタッフは、多くの利用者の方が快適且つ利用しやすい図書館環境の整備に日々努めています。返却された本を元の書棚に戻す「配架」や書棚の整理をする「書架整理」、高校生や新入生に図書館の案内を行う「図書館ツアー」など、図書館の運営において重要な役割を担っています。また、館内の掲示物の作成、毎月特集した本の紹介やHPの作成など活動内容は多岐に渡ります。2016年度より衣笠キャンパスの図書館は「平井嘉一郎記念図書館」に新しく生まれ変わりますが、建物や設備がこれまで以上に使いやすくなることはもちろんのこと、より一層快適で利用しやすい図書館の環境を提供することは学生ライブラリースタッフの使命であると考えています。利用者の方の声に耳を傾けつつ、ここで学ぶ一人の学生として、一人ひとりの学びを支える図書館を創っていきたいと思っています。

私たち学生ライブラリースタッフは図書館と利用者の皆さんをつなぐ架け橋として図書館の運営に携わっています。具体的な業務として返却された本を元の棚に戻す配架業務や書架が正しい場所に配架されているかチェックしながら整理を行う書架整理、ラーニングコモンズ「ぴあら」の環境整備や質問対応を行う業務などをしています。また学生ライブラリースタッフは図書紹介、広報、ホームページのいずれかのプロジェクトに所属し、業務を行います。例として新着図書の紹介、ブックカバーや各種ポスターの作成、「図書館へ行こう」というHPの編集などを各プロジェクトで行っています。その他の業務としては新入生やオープンキャンパスの際に見学に来てくださった方々への図書館ツアーなども行っています。

今年度より開設したOICライブラリーですが、学生や教職員だけでなく一般の市民や校友、父母の方々も多く利用されています。今後は学生や教職員だけに焦点を当てるのではなく一般の市民や校友、父母の方々にも焦点を当て、すべての利用者の皆さんがより快適で利用しやすい図書館を作ることを目標に学生ライブラリースタッフ一同がんばっていきたいと思います。

経営学部 経営学科 3回生
飯 健一郎 さん

理工学部 ロボティクス学科 2回生
藤井 慎也 さん

こんにちは。BKC学生ライブラリースタッフの藤井です。皆さんは学生ライブラリースタッフをご存じですか？我々は日々みなさんが図書館を快適に過ごせるように活動しています。たとえば本を元に戻す。本の紹介をおこない興味を持ってもらう。図書館ガイダンス等の講師となり皆さんをサポートするなどたくさん活動しています。図書館が面白くないと思っている人も多いと思います。でも、よく見てみれば、読みやすい雑誌があったり、写真集があったり、DVDがあったり・・・。実は図書館は結構楽しいのです。図書館に来てもらえればさまざまな発見をすることができます。ぜひ足を運んでみてください！

Voice 各館利用者インタビュー

衣笠キャンパス
衣笠図書館

※衣笠図書館は、2016年4月より
「平井嘉一郎記念図書館」へ移行します。

平井嘉一郎記念図書館

利用することになったきっかけ

小さい頃から読書が大好きでよく図書館に行っていましたが、大学での学びのために図書館を利用することを知ったのは、1回生の「研究入門Ⅰ」の授業です。先生が衣笠キャンパスの図書館（衣笠図書館※、修学館リサーチライブラリー、人文系文献資料室）を案内してくださり、大学図書館にはどんな資料があるか、研究の際にはどんな資料を利用したらいいか等を詳しく教わりました。そこで得た知識をもとに、今は特に授業での発表にあたって図書館の資料やサービスを頻繁に活用しています。

普段の利用方法・お薦め

私は日本文学を専攻しており、授業で発表がある時には最低1ヶ月前から資料集めなどの準備を開始します。その際、文献調査で「レファレンスカウンター」をよく利用しています。立命館大学に所蔵のない資料については、レファレンスから他図書館に文献複写を依頼します。過去には、沖縄県の大学にしか所蔵のない資料を速達で取り寄せたこともあります。また、複写でないと閲覧できないと思っていた資料が、実は「R-Cube（立命館学術成果リポジトリ）」や「国立国会図書館デジタルコレクション」等の電子資料で閲覧できると教えていただいたこともありました。レファレンスの方がいつも親身になってサポートしてくださるおかげで、自分の調査・研究の幅が確実に広がっていると実感します。

資料作りにあたっては、図書館のHPから利用できる各種データベースも活用しています。例えば「CiNii Articles」で論文を検索したり、注釈をつける際には「JapanKnowledge」を使ったりします。電子資料は大量のデータの中から情報を網羅的に検索することができて便利ですし、画像も鮮明であるため、参考として引用することで資料がわかりやすくなります。

「ぴあら」も便利ですね。特に1、2回生時はグループ発表が多く、仲間とぴあらに集まって準備をしていました。パソコンを借りられることは勿論、図書館の資料を持ち寄って、仲間と声を出して議論を行うことができる、そんな環境は他にないのでとてもありがたかったです。

学生生活の中での位置付け

私にとって大学図書館は、自分の専攻に対する学問的好奇心を高めてくれる資料が沢山あることが魅力です。調査では貴重書なども見ますが、すごく分厚くて、古くて、綴り字などで書かれている資料を見ると、遠い過去からの知識がココに詰まっているのだなあと感動します。また、大学では、自分の専門外の様々なジャンルに興味を持って本を読んでみることも多くなりました。図書館で色んな知識を得て自分の世界を広げ、物事を深く考えることができるひと時が幸せです。

4月からは新たに平井嘉一郎記念図書館ができますが、自動書庫、ライブラリーバレーの貴重なコレクション群に期待しています。これまで以上にレファレンスカウンターを活用して、沢山の資料に触れていきたいです。

金澤 知穂 さん
文学部 人文学科
3回生

大阪いばらきキャンパス
OICライブラリー

利用することになったきっかけ

最初に図書館を利用することになったきっかけは、1回生の「基礎演習」の授業で行われた学生ライブラリースタッフによる図書館ツアーで、色々な利用方法について説明を受けました。その後、空きコマは友人と過ごしていましたが、友人が授業に出席するため、一人で授業の課題を行おうと図書館を利用し始めました。実際に利用してみると間仕切りがある静かな閲覧席など勉強に集中できる環境であることを実感でき、以来空きコマがある時は図書館で勉強することが日課になりました。また、将来、地方公務員になることを決心したときを機に、一番集中できる場所である図書館をよく利用することになりました。

普段の利用方法・お薦め

私は授業やゼミナール、先生が推薦してくださる学術書や参考書を利用します。また、気分転換を兼ねて小説をよく読むので「読楽コーナー」、「文庫コーナー」や「新書コーナー」の本を貸し出して利用しています。お薦めのコーナーは、私もよく利用している検定本などが充実している「進路・就職コーナー」です。

施設では、4階をよく利用します。机の配色や装飾がダークで、落ち着いて勉強できる環境です。特に勾玉型の閲覧机が大変気に入っており、教科書や問題集を多く利用するので、広いスペースが確保できて便利だと思います。また、テスト期間には友人と勉強をする機会が多く、会話することが出来る「ぴあら」もよく利用しています。

情報収集は、先ず「蔵書検索コーナー」で資料の情報を確認した上で、必要な資料を手に取り利用するようにしています。その他、「サービスカウンター」で図書館の利用方法やサービスについて質問をしています。

学生生活の中での位置付け

私にとって図書館は、大学生らしい自主的な「学習を展開できる空間」です。高校生までは、ただ単に本を読む場所という位置づけでしたが、大学の図書館は本を読むことができ、情報収集などの勉強も集中して出来ます。また、友人とプレゼンテーションの準備など積極的な会話などのコミュニケージョンも取ることができる場所です。大学生として自らを高めるために必要な空間でもあります。

高嶋 里穂 さん
経営学部 経営学科
3回生

Voice 各館利用者インタビュー

びわこくさつキャンパス メディアライブラリー

利用することになったきっかけ

1回生の時の情報処理演習という講義で、図書館のスタッフの方がガイダンスをしてくださって、その時に、「大学の図書館は学生にとってとても便利で優れたコンテンツが沢山ある」ということに気付き、積極的に利用しようと思いました。私が大学に入るまでに利用してきた図書館とは違って、様々な資料や施設が充実しています。図書館はとても静かなので、いつも授業の空きコマを活用して、課題や資料を使って論文の執筆をしています。必要な資料が館内に無い場合でも、パソコンから図書館のデータベースを使って情報の検索をすることもできます。図書館は、ただ、本を借りるところではなく、自分のあらゆる能力を高めるためにとても重要な場所であると思っています。

普段の利用方法・お薦め

私は「経済と法」について興味があり、民法と公共政策に関連した書籍に加え、その他様々な法律に関連した書籍を特によく読んでいます。将来的には、公務員や法務系の仕事をしたいと思っており、図書館の資料を参考に、資格試験の勉強もしています。私のお薦めの場所は、メディアライブラリー2階奥の閲覧室です。机に仕切りがある自習スペースがあります。自習したいときは必ずここに来ています。

3階のRAINBOW HIROBA（マルチメディアルーム）も利用します。ここでは、レポートを書いたり、論文を検索して、参考文献を探したり、色んな情報を得ています。学生レインボースタッフも常駐してくださっているのでとても安心して利用できます。1回生のころ、パソコンの使い方が分からなかったときに非常に頼りになりました。また、周りを見渡していても意外と利用者は沢山いて、本を読んでいるだけでなく、グループ学習室でディスカッションをしたりと、皆それぞれ頑張って勉強しているなと感じます。

学生生活の中での位置付け

私にとって図書館とは、「自身の学びを深める場所、自分の能力、集中力を高める場所」です。図書館では、本当に多くの情報に出会えます。これを元に、今後も沢山の学問に触れたいと思っています。沢山の考え方があると、それらを状況に合わせて吟味することができますし、多角的な視点から考察することができます。自分の知識の引き出しが増えるので、あらゆる決断において取捨選択ができるようになるのです。これからも図書館を通じてもっと沢山の学問に触れて、自分は何を深めていくべきなのかを探していきたいです。そして将来は、困っている人を専門的な知識から助けられる人材として世の中に貢献していきたいです。

三尾 俊介 さん
経済学部 経済学科
2回生

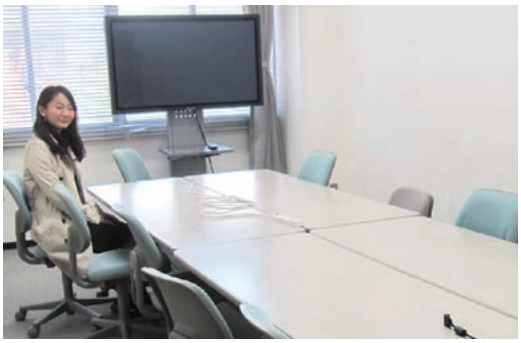
びわこくさつキャンパス
メディアセンター

利用することになったきっかけ

2回生になってから、勉強の難易度が上がりました。そんな時、英語の授業内でしてもらった図書館ガイダンスがとても分かりやすく、それをきっかけに図書館を積極的に利用しようと思いました。レポートを執筆する際は、図書館の資料を使ったり、「グループ学習室」に友人と集まって、勉強会をしたりしています。読書も好きで、推理小説をよく読みます。夏休みなどの長期休暇の際には、ゆったりと読書ができる時間を作るようにしています。また、図書館HPからアクセスできるデータベースもすごく便利で、レポートを執筆する際の参考文献などを検索して閲覧しています。本来は有料のデータベースを立命館では無料で提供していただけてとてもありがたいです。

普段の利用方法・お薦め

グループ学習室は特によく利用します。ここでは、普段はあまり話さない友人とも勉強を通じて出会い、仲良くなることができました。友人が勉強している姿を見たり、勉強についての話を聞いたりして、自分ももっと頑張らないといけないと気付かされました。今では私も負けないように勉強をしています。図書館という場所を通じてすごく素敵な出会いを経験できています。また、自主学習が出来る閲覧室もお気に入りです。メディアセンター2階の閲覧室はとても静かで勉強に集中することができ、自分が深めたい分野をゆっくりと学習することが出来ます。テスト前はもちろん、普段の空いた時間にはよく来てレポートを書いたりしています。閲覧室に他の利用者がいると、なんだか安心します(笑)お互いに頑張っていることを共感しているような気がしてやる気が出ます。



学生生活の中での位置付け

私にとって図書館とは、自分自身が興味を抱いていることや、なんとなく勉強してみたいことがある時に行けば必要な情報を得ることができる、まさに、「自分の知識を深めるきっかけとなる場所」だと思います。幅広く知識を持っていれば、今後様々な人と出会ったとき、その人との人間関係を深めることができます。その「知識」を習得するきっかけを与えてくれるのも図書館です。今後も幅広い知識を身につけて、色んな人と関わりあう中で自分が理想とする自分に出会いたいと思っています!

戸田 菜月さん
薬学部 薬学科
2回生

連載

さよなら衣笠図書館
～本学のさらなる発展を期して～

第3回

理工学部特任教授

酒井 達雄 SAKAI TATSUO

筆者は、1964年4月に本学理工学部機械工学科に入学し、大学院理工学研究科を修了後、1971年4月より縁あって母校の教員として長年勤務させて頂いています。特任教授在任期間を含めると45年の長きにわたり、本学理工学部に籍をおいて教育・研究に携わることができたのは誠にありがたく、感謝に堪えません。上記の経歴より、筆者は、学生および教員の双方の立場から本学で学び、教育し、研究や行政に取り組んできており、その間の本学発展の推移を生身で経験して参りました。このたび、「さよなら衣笠図書館」と題する本誌特集記事への執筆依頼を受け、衣笠図書館が開設された学部3回生時代を想い起しながら、図書館に纏わる筆者の思いや今後の発展への期待を寄稿させて頂きます。

当時、本学は第2次長期計画として衣笠一拠点化事業に取り組んでおり、それまで理工学部だけの衣笠キャンパスに広小路学舎から各学部を順次移転する大事業の進行過程にあり、毎年、槌音高く新ビルの建設が続いておりました。立命館高等工科学校開設以来、衣笠キャンパスには木造2階建ての校舎が立ち並び、実験室棟は木造平屋建ての質素な施設で、学生の目から見ても表現に苦慮する環境の中で、1965年には鉄筋コンクリートの以学館が竣工し、経済学部・経営学部が移転しました。次いで、1967年には鉄筋コンクリート・3階建ての衣笠図書館が建設され、多くの木造校舎を見下ろすような威風堂々たる2つのビルが衣笠キャンパスの風景を一変させました。その後、学部移転の進行と連動して次々に新校舎が建設され、理工学部の校舎も順次建替えられ、1981年の存心館竣工とともに法学部が衣笠キャンパスに移転し、一拠点事業が成功裡に完結しました。

理工学部の学生であった筆者は、上記のような衣笠キャンパスの変貌に学生の立場から大きな達成感あるいは満足感を抱き、大学らしい雰囲気を備えた立派な図書館にしばしば赴き、色々な書物を読みました。理工系の論文集などの専門書は別の建物に保管され、理工系の教員の便が図られていたので、新しい図書館を利用するためには、教養科目や語学関係の書物を読むこととなり、筆者にとっては新築された「図書館利用」そのものが主たる目的でこれらの書物を勉強した訳で、本末転倒と言われれば誠にその通りです。大学に入学して初めて学ぶ第二外国語としてドイツ語を選択しましたが、上記の背景の中でドイツ語の参考書や種々の著作を図書館で読み漁っているとき、ドイツ語にも日本語の行書や草書に当る古い書体があることを知り、大変興味深く思ったので、シッカ

▲往時の衣笠図書館

◀1965年頃の理工学部校舎
（現清心館付近）

リとその書体が手書きできるように練習したことを懐かしく思い出します。そして、ドイツ語の授業の折に何らかの文章を黒板に手書きするような局面があり、試しに練習を重ねたその書体で板書したところ、ドイツ語の担当教員が大変驚いて「君、こんな書体をどこで勉強したんだ？」と質問されたので「衣笠図書館で勉強しました。」と答えました。担当教員は、さすがにこの書体をご存知でしたが、ご自分で書いたことはないと仰っていました。

さて、衣笠図書館に纏わる一つのエピソードをご紹介させて頂きましたが、最後に「図書館」に対する筆者の私見と期待をのべさせて頂きます。人類の長い営みの中で文字が生まれ、その文字を用いて膨大な著作物が蓄積されてきた歴史の重みと意義については、説明の必要はないと思います。図書館は、このような人類の長い営みの歴史を、端的には書物の形態で蓄積・保存しており、新しい文化や概念の創出、真理の探究、新たな技術や手法の開発、生活を豊かにするためのもの造りや仕組みの確立など、ありとあらゆる人間の営為における基礎資料を与えるものと考えます。いわば、思索や概念創造の基盤を与える貴重な資料の宝庫です。したがって、可能な限り幅広く、種々の著作や図書資料を収集・保管し、検索・利用の便を図ることが大切と思われます。

時代は一段と情報化・ICT化が進んでおり、図書資料の電子データ化が普及しておりますが、電子データ化された図書データは、それ自身が大きな意味と価値を持ち、検索や参照の利便性をもとに特定の組織や企業がこのようなビッグデータを営利目的で使用する傾向は、年々顕著になりつつあります。大学の図書館がこのような国際的趨勢に飲み込まれないように慎重な対応をするべきかと考えます。世界中の大学図書館の蔵書・資料を瞬時に参照できるのは極めて便利なことですが、個々の書誌データのoriginalityを考えると、上記ビッグデータの利用収益は、電子サービスを行っている特定の企業や組織だけでなく、個々の書籍の著者や世界各国の大学図書館にも還元し、各国の図書館の維持発展の資金に充当できるような新たな図書利用システムが望まれます。

このたびの「さよなら衣笠図書館」企画は、そのまま「あらたな平井嘉一郎記念図書館」の展開に直結することになりますが、少なくとも今後100年程度の展望のもと、人類発展の基礎資料を与える「宝庫」としてその意義を確認し、利用価値の高い大学図書館として発展することを祈念します。また、本学園の各キャンパスに設置された図書館施設は、すべてリンクされており、いずれのキャンパスからもすべての蔵書・保管状況が検索できます。年々の新入生諸君が、在学生ともども各人各様の観点から、このような大学図書館の機能を日常的に有効利用し、一人一人、十分な学習効果を挙げて頂くことを期待しています。

「読楽コーナー」学生選書活動 報告

衣笠図書館、BKCメディアセンター、OICライブラリーで、恒例の「学生選書」を実施しました。各館数名の学生スタッフが選書テーマを話し合い、「読楽コーナー」に配架する図書を選びました。作成されたポスターや推薦文からは、学生スタッフの図書に対する思いが伝わってきます。読書のきっかけに、ぜひ選ばれた図書をご利用ください。

学生選書活動は毎年実施しています。詳しくは図書館ホームページのNews＆Topicsをご覧ください。

衣笠図書館

衣笠は**「CHANGE―新しい自分に出会える１冊―」**というテーマで、知る・振り返る・考える・深める・視野を広げる・成長する、という６つの切り口で選書しました。

BKCメディアセンター

理系の院生３人による今回のテーマは、**「キミの世界はそれだけか!?　この一冊が価値観を変える!!」**です。これから社会へ羽ばたいていくみなさんに、本を通して世界を広げて欲しいという思いで選書しました。

OICライブラリー

OICライブラリー初回のテーマは**「いろんな人から学ぼう」**です。３人の学生選書スタッフが「本から色々な生き方や人生観に出会い、新しい自分を発見してほしい」との思いで選定しました。

展示企画のご案内

衣笠図書館では、戦後70年展示企画『「時代の空気」から歴史を読む』展と題して、開戦の興奮を詠む歌人たちの詩を掲載した文芸誌や、戦争に協力しない人々を締め出そうとする宣伝ビラ（複製）などを展示しました。OICライブラリーでは、立命館国際平和ミュージアムとの共催で、日本財団学生ボランティアセンターの協力を得て、『絶望の島から希望の島へ「クリオン島」―ハンセン病と差別の中に生きる人々―』展を開催し、本学学生が現地で撮影した写真パネルなどを展示しました。

2016年度も、図書館の資料の紹介や、図書館が提供するさまざまなサービスを利用するきっかけ作りになるような展示を企画していく予定です。

ホームページ「図書館へ行こう」のご案内

図書館のトップページにある「よむりす」をクリックした先に、学生ライブラリースタッフが提供する「図書館へ行こう」のホームページがあります。新着図書の紹介、毎月テーマをきめて図書を紹介する「今月の特集」、先生のインタビューなど、毎月、フレッシュな記事をお届けします。

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/2009lshp/lstop.html

RITSUMEIKAN

立命館大学図書館だより ― Library Navigator ― Vol.119 2016年3月

発行：立命館大学 図書館サービス課　〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL：075-465-8217　FAX：075-465-8252　http://ritsumei.ac.jp/library/

Library Navigatorは最新号・バックナンバーともに図書館ホームページでもご覧いただけます。

立命館　図書館だより　検索